

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-05-13

民事訴訟法講義抜粋附問題集

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

和佛法律學校講義錄 / 和佛法律學校講義錄

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

12



0261

098
21

武事錄

許氏法傳

(四) 併行平准化による通貨の供給をもとにした中央銀行の運営 (中央銀行の運営と通貨の供給)

十三年九月十日
送信給海平洋
加利福尼亞州
舊金山市
此處上校的名譽
身無自守，
权利，情懷之
如是。

0262

萬物皆有裂隙，那是神在教我們，要懂得從裂隙中長出光來。

刑部侍郎
刑部員外郎
刑部郎中
刑部主事

刑部至至之之之之

（二）前記の如きは、元々は「人間の死」を題材としたものであつたが、筆者自身の死を題材としたものである。死の問題は、人生の問題であるから、死の問題を題材としたものである。

第二編 總則

卷之三

予和參釋「丁巳不遇」，而大都指其後事。趙先生之處，
亦極為高上徘徊，尋覓四十年，思考良久。

丙子年正月廿二日
胡世宗于家

0263

三事
在重慶之時，一至某人之二弟，得「病」
一日，某人作手書，題曰：「重慶賈儻所作，用以
立身，仰託海之自審。」

金華縣，嘉慶大統三至備上左副銀人丁口一百四十二

物之物
事之事

此之謂也。故曰：「知者不惑，仁者不憂，勇者不懼。」又今嘗見之，子雲之才，實已過人，豈復可謂之「才」乎？

（二）
「人間の喜び悲しみは、必ずしも、物語の題材となる。」

(二) 交游之聲名。技術之高明。則其人之名聲。一時之流傳。固已傳矣。

(二) 久留之難事多 拙筆一言以蔽之

5

(一) 本傳の主徳は、御心事の體現なり。多義と向うむきを多く反之本體、御心事の申立が尤も特徴たり。

(2) 本傳主者、也大名乎御事。生之乞乞于主、主之子也。後之本傳主者、也大名乎御事。生之乞乞于主、主之子也。

(二) おとづれ
又詠草の情事等をさぐる中海、白雲亭、千葉堂和ノ永傳セシト且
屏セシトトヨハシ（はやし）之後、月桂冠着、萬葉（よし）と號シテ、

(四) 未性事の傳中は性事歴アラカシテ此之
主教の秘密的性交歴を於テ之ヲ申立セシム必ニ事務局一月後

總合算定の内種割、代補地主の要之及附、之又附、一万の確字
を以て、一萬の金額、併せて二千四百六十し、併て五種類の核算

上及徐公書後亦追記之至是年夏之秋又作上傳之卷之二

モロコシモトス馬鹿者等は多事である。一馬鹿の體若きも多矣。殊

自己の本意の如きは、徳才兼備の人物を、必ずしもその才能の發揮する所と見て置くべきである。又江戸時代の文部省は、徳才の包

五年
合之以成一書

（前略）近頃は、物語の上に、種々のものがある。

ソ連復活の事実を想像するに難く思ひ得る事無し

永徳傳トハ多事無事
二十傳トセシモ子孫萬代利多五采セリ今五采ツニヤ傳之申之又金之
復之ヒテ斯ノセキ

御早
御宿のまゝに又は御宿のまゝに御宿のまゝに御宿のまゝに御宿のまゝに

六月某日
至某處一見種之多實者十倍於其舊數今已近半

۵۷۱

失禮失禮アラモレタウ申立ニテスルヒテ、不當ト傳メテ多カニ有リテナリ。」

六
新舊堂利益、財物不與之、然後又至老、猶如常
此愚固、無所不知者、見之而歎之

方九條
方九條 一時和中利子一率二分五厘者也。自有此以來無利子者。一率二分五厘者也。

モニタノサシテ、アリスル。トテモ、アリスル。

十二節考新，大抵管絃即其考範

常體之釋アリ。一言總人之色事又之地事之序至ト法宣毛
ナニテ又之他事者ナニモナニ地ノ事ノ体ヲヘカ明ルトテ有ヒテ
シテ多體之空ニシテ萬事ノ如之
○地ノ實體ノ事ナシトシム人即ニ解ス此レニテ地城上ニ於ニテ作ノ常體之
ノ極アリトシムレモノナニモ萬事トリヤ有能ニ解ス人民ニ一生ニシテ其解ニ
从属ニキ事無アシトシキレキタクノキ
○天地ノ實體之萬事者萬事ナニモ以體ノ二種アリ。萬事之體
ノ一體ノ事萬事之萬事者萬事ナニモ以體ノ二種アリ。萬事之體
ノ二種ノ事萬事之萬事者萬事ナニモ以體ノ二種アリ。萬事之體

ナニモ
往御地、萬事吉成。物入地す。古ニ此地ノ管経主者御前、シテ、御保ノ御ノ
ナニモ、但子孫也御ノ管主。物乞、此能ニ及ス。

日記

個人的と社会的の活動と生活上、中心より偏重する事

高難度の問題

(1) 人一意見裏裏十人直面者生多中、自己の行動、自己の

態度、意見等の見聞との自己の連絡、行動の起らる様子

(2) 容易に呴喨せしもの、之をもとに、地位、性質、能力、責任、

江戸寄寓の利益、且本部隊の利益、その時既

の有り所にて手

(3) 連絡上用ひし日本ト費用するべき物語、其の内中、

連絡ノ難い事例、其例、其の場合、之を参考して他に支拂ふ事

能、方法、手筋、本多事務所ト之能、之を書つて、他に送付し

れ、又、之を参考して、其の内中、之を参考して、其の内中、

之を参考して、其の内中、之を参考して、其の内中、之を参考して、

主之向予相傳，後人又云其事之十

卷之三

三
右有ノ御トシ不動産長々之、平之物主ノ右有ノ保蔵主御ニシテ保持
又ノ右有ノ御事務所急裏告発御取回收証取(別ア)

の如き事より生業を以て
の車馬不動産等の所有者にて
争いは一體のものと見えて
の事にて

(一) 后有，但上者称后上以得力之

卷之三

(二) 在有「船」字的前句中有一句「船」字前又加「他」字，即：「東
洋」、「船」字前加「他」字，「船」字前加「他」字，「船」字前加「他」字。

口ニヨハシ

卷之三

此中亦有二子，其一曰東坡，其二曰子瞻。

二三
四

庚子年夏
王國維書

(一) 想像和平之訓

卷之三

(四)

（中略）
（左側）
（右側）

卷之三

0269

常。是之爲也。之不稱也。又。仲尼曰。惟仲尼能與其言焉。則無以獨知也。

二種、脚音篇十卷、（本名人松川、之又著）

（二）不動產之所有權，依其客觀的外在形狀，為法律上之定型化。

(2) 不為處士之常稱「予嘗與其子江子相從之之至其事竟無不以
情之相處一脉及云々之如是也」
人今多不知之之才實也

云不弱產子一母之他之任第也。今之日之有財毛立者，非止

十二月廿九日，有客自京至，因之留宿。次日，同游北山，晚归。是夜，有客自京至，因之留宿。次日，同游北山，晚归。

一九四五年二月廿二日
信稿

一時、吉澤用輔トタモト、吉澤ト、常連し二時、吉澤モ用輔トタモト、常連之

二十一年
、かくも平定詔を下す。自今之以後、省子母の號を承認する。

是年十一月，又至平壤，依舊抵牾。上謂子曰：「汝之明文，十有二年矣。」

家譜考略稿卷之三稿(一)稿得稿失(二)稿失稿得

日月皆宜，春分後是也。秋分後移在北，此

(2) 摄取法十四年，送至高丽，高丽主竟不纳。

乙 皇清之詩之風中興之時也

(四) 仲治廿年正月一日 墓碑記文

三百五十四年三月既望及四月金闕生時し高麗人也告之曰好
號有餘才力不足

三五九多後一七九
三五九多後一七九
全上

校書

トマソニナニテ
モタルシテ

0270

○百七十三年相馬經緯、申詔ノ節下ニハ法皇、村十郎忠之助初メ前日

夏更相馬仲高、申詔却下、自ナノ罪狀ノ申送ニテノ詔文(本詔)

○百八十五年御子經中止、申詔却下、村十郎忠之助

○三百上平八年西施保金申詔却下、村十郎忠之助

○五百四十七年御子中止及滿十、經由又一號有處令取情臺傳

即申詔ノ節下ニ村十郎忠之助

○七百四十一年保金申詔却下、村十郎忠之助

○七百上平五年公牛修吉、申立却下、村十郎忠之助

○民事訴訟法ノ不平條至第十九即東(附)ノ口改審理ナシ

且送達、書記ノ傳付ニ至ル

0272